原著論文 ／ ノート

論文表題

－論文副題（必要に応じて）－

感性　太郎\*，感性　二郎\*\*，感性　三郎\*\*\*

\* 感性大学，\*\* 感性大学大学院，\*\*\* 感性産業株式会社

## Title of the Manuscript (in English)

– Subtitle (in English, if necessary) –

Taro KANSEI\*, Jiro KANSEI\*\* and Saburo KANSEI\*\*\*

\* *Kansei University, 1-1-1 Kansei, Kansei-shi, Tokyo 111-8888, Japan*

\*\* *Graduate School of Technology, Kansei University, 1-1-1 Kansei, Kansei-shi, Tokyo 111-8888, Japan*

\*\*\* *Kansei Sangyo Co. Ltd., 1-1-1 Kansei, Kansei-shi, Tokyo 111-8888, Japan*

**Abstract:** Life cycle inventory analysis (LCIA) of recycling system for wastepaper was examined from the point of view of CO2 emission and energy consumption. The effect of increase of the percentage for wastepaper use was evaluated on production of the recycled paper. Compared with the paper 2%. Therefore, to examine the influence of the whole system, the numerical model of the recycling system for wastepaper was constructed with parameters: output of paper products, pulp sand fossil fuel consumption and so on. The effect of increase of ore, to examine the influence of the whole system, the numerical model of the recycling system for wastepaper was constructed with parameters: output of paper products, pulps and fossil fuel consumption and so on. The effect of increase of the percentage for wastepaper the paper made of 100% chemical pulp, it was estimated that the CO2 emission of the recycled paper made of 100% recycled pulp would decrease by 45%.

**Keywords:** *Keyword-1, Keyword-2, Keyword-3*

1.　はじめに

日本感性工学会誌に掲載する論文は，感性工学の発展に寄与することを目的に，広く感性工学［1］に関する研究成果を掲載・発表するものである．

論文の著者に本学会会員が含まれていること．ただし，編集委員会が特に認めた者についてはこの限りではない．

2.　執筆要領

2.1　論文の種類

日本感性工学会の考える原著論文とは，他の学術雑誌・商業誌などに未発表の論文をいう．但し，口頭発表，国際会議での発表，紀要等の組織内の刊行物で類似の内容が発表されていても，投稿を妨げない．

なお，論文は4ページ以上，10ページ以下，ノートは4ページ以下を目安とする．

日本感性工学会では，感性工学に関連する分野・課題・方法論の多様性に鑑み，A～Jのタイプを設けて査読の方針を想定している．但し，これは典型的なタイプ分けであって，これらの中間形を排除するものではない。投稿に際しては，どのタイプの論文と考えているかを明記すること［2,3］．

なお，論文原稿には，その内容がよく理解できる150ワード以内の英文要旨をつける．

2.2　標題

標題は和文ならびに英文とする．特に，主題は簡潔に，一見して研究論文の内容がよくわかるように工夫して記す．また，「・・・・に関する研究（1）」などの研究の連続性を示す標題は主題とせず，副題にする．英文表題には，原則的に冠詞は付けない．

2.3　著者名・所属

著者名・所属は和文ならびに英文とする．著者名は研究の直接担当者のみに限定し，謝辞のなかで挙げるのが適当と思われる研究者を著者扱いにすることは避ける．

2.4　要約

要約［Abstract］は英文とし，本学会所定の［割付用紙］に記載された指示事項に従い，150ワード以内で記述する．要約［Abstract］は，「原著論文」「ノート」のいずれに対しても，研究内容が的確に理解できるよう簡潔に記述し，十分な校閲を経たものとする．査読の段階で不備が指摘された場合は，Native Checkを受けた要約［Abstract］を提出する［4］．

2.5　キーワード

キーワード［Keywords］は英文とする．本文の内容を的確に表すキーワードを，最大三つまで記す［5-8］．

3.　標題および本文の割付

3.1　標題等の割付

本学会所定の和文フォーマットに準じて，［掲載区分，標題，著者名，所属，要約，キーワード］の割付を1段組みで行う．

3.2　本文の割付

本文は2段組みとする．天地左右余白（マージン）・段間余白（コラムスペース）は，［割付用紙］の指定寸法に準ずる．本文および参考文献に使用する書体は，本学会所定の［割付用紙に記載された指示事項］に準ずるようにし，横書き二段組とする．割付は，一段を27字×50行（1350字詰め）とする（1頁計2700字詰め）．文章は，当用漢字，現代かなづかい，ひらがなまじりを原則とする．原則として，例えば，［緒言・序・はじめに，実験方法・調査方法，実験結果・調査結果，考察，要約・結語・結論・おわりに，謝辞，参考文献］などの区分を設けて記述する．原稿には，大見出し・章，中見出し・節，小見出し・項などを設け，それらを明瞭に区分する．大見出し・章，中見出し・節が変わる時には，1行あける．なお，小見出し・項が変わっても，1行あけない．

大見出し・章は，1.，2.， 3.，‥‥，中見出し・節は，1.1，1.2，1.3，‥‥，の記号を用い，本文は改行する．小見出し・項は，（1）（2）（3）・・・の記号を用い，改行せずに，1字あけて本文を続ける．さらに細分を要するときは，著者の分類に委ねる．普通に用いられる外国語の述語はカタカナ表記とする（例えば，industrial design→インダストリアルデザイン）．ただし，カタカナ表記することによって字義が不明確になるおそれのあるものは，この限りではない．なお，欧字のまま記す必要がある場合には，例えば，Morris，ideaのように，半角文字（1コマ2文字）にする．

数字は原則として算用数字を用い，例えば，表1，図2，30cm，7.2g，1.08kg，1.258，5時間，80円のように記す．また，英数字は，半角文字を用いる．年号，月日は，原則として算用数字を用いる．また，年号は西暦による表記を原則とし，元号を併記する場合には，例えば，1963（昭和38）年のように記す．句読点には，ピリオド（．），コンマ（，），中点・ナカグロ（・），コロン（：）を用い，それぞれ全角にする．また，／「　」『　』（　）｛　｝〈　〉《　》［　］【　】なども1コマに書く．量記号，単位記号，符号は，国際的に慣用されているものを用いる．単位は，原則としてSI単位またはCGS単位を用い，記号で表示することが望ましい．必要ならば，JISZ8203を参照する．文章中の式は2行にするのを避け，例えば，a／b，（a＋b）／（c＋d）のように記す．文章中の元素記名，化学物質名は，原則として文部省編「学術用語集，化学編」の和名で記す．混同しやすい文字や記号は，明瞭に区別できるようにする．1（イチ）とl（エル），0（ゼロ）とO（オウ）などは特に注意する．

表1　快適性と強度との関係

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| A | B | C | D | E |
| あ | い | う | え | お |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |

3.3　図表の割付

図・表の割付は，原稿2枚目（刷り上がり2頁目）以降から行う．図・表は，印刷に十分耐えるものでなければならない．刷り上がり時の文字が小さすぎないよう十二分に配慮し，線の太さにも注意する．図・表の最大の大きさは，原則として刷り上がり1頁までとする．図・表には，図1，図2-1，表1，表2-2のように通し番号をつけ，標題および本文を併読しなくても理解できる程度の簡単な説明を付記する．なお，標題ならびに簡単な説明は，図の場合には図の下に，表の場合には表の上に記す．特に必要でない限り，同一データを図と表とで重複させない．写真は図として扱う．刷り上がり時に不鮮明となる写真は使用しない．

3.4　参考文献、注の割付

参考文献は，通し番号とし，本文中の当該事項などの後に，［1］，［2,3］，［5-8］のように記す．作品などの参考文献にないものは「注」又は「脚注」とする．注は，通し番号とし，本文中の当該事項または人名などの後に，［注1］，［注13］，［注5-8］のように記す．文章の末尾に記す必要がある場合には，句読点の前に記す．掲載原稿の最後に著者紹介を掲載する．掲載決定後，150字程度の著者紹介文と顔写真（なるべくデジタル写真．あまり小さいものは画質が落ちるので好ましくない）を提出する．

謝　辞

謝辞の本文，謝辞の本文．

注

1. 注の本文．



図1　快適性と強度との関係

参考文献

1. 日本太郎，青山由美子：シンボル・感性工学の日本的特性，日本感性工学会論文誌，45(3)，pp.57-60，1981．←日本語誌名については省略せずに正しく完全な名称を記述すること。
2. Bohannan, P.: New Project for Industrial Design, Current Design, 5, 1966.
3. 日本富士雄：図説感性工学の基礎，日本書房，pp.55-72，1971．
4. Leach, E., F. Codington and G. L. Hemingway: Forms and Function, National Press, p.87, 1976.
5. Osgood, C. E.: The nature and measurement of meaning, Psychological Bulletin, 49(3), pp.197-237, 1952.
6. ベルグ, A.，田中一郎訳：サインとシンボル，世界感性工学出版，p.23，1957．
7. Murdock, G., M.B. Caffee, trans.: Stage of Design, University Press, pp.67-68, 1978.
8. Ekman, P. Official Website： http://www.paulekman.com/ (2015/06/04閲覧).
9. 第18回日本感性工学会大会HP： http://www.jske.org/ taikai/jske18/submission/ (2016/04/14閲覧).←URLが長すぎて1行に入らない場合は、適切な場所で改行する。